

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第7週のインフルエンザの推定患者数は約47万人と3週間連続して減少。流行は落ち着きつつあるが、今しばらくは注意が必要』

2019年2月19日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第7週（2月11日～17日）のインフルエンザの推定患者数は、468,652と前週の値（1,016,041）よりも減少し、3週間連続しての減少となりました（図1）。また、週明けの月曜日（2019年2月19日）の推定患者数は91,300と前週の休日明けであった火曜日の値（138,891）を下回っており、インフルエンザの患者数は今後更に減少していくものと予想されます。

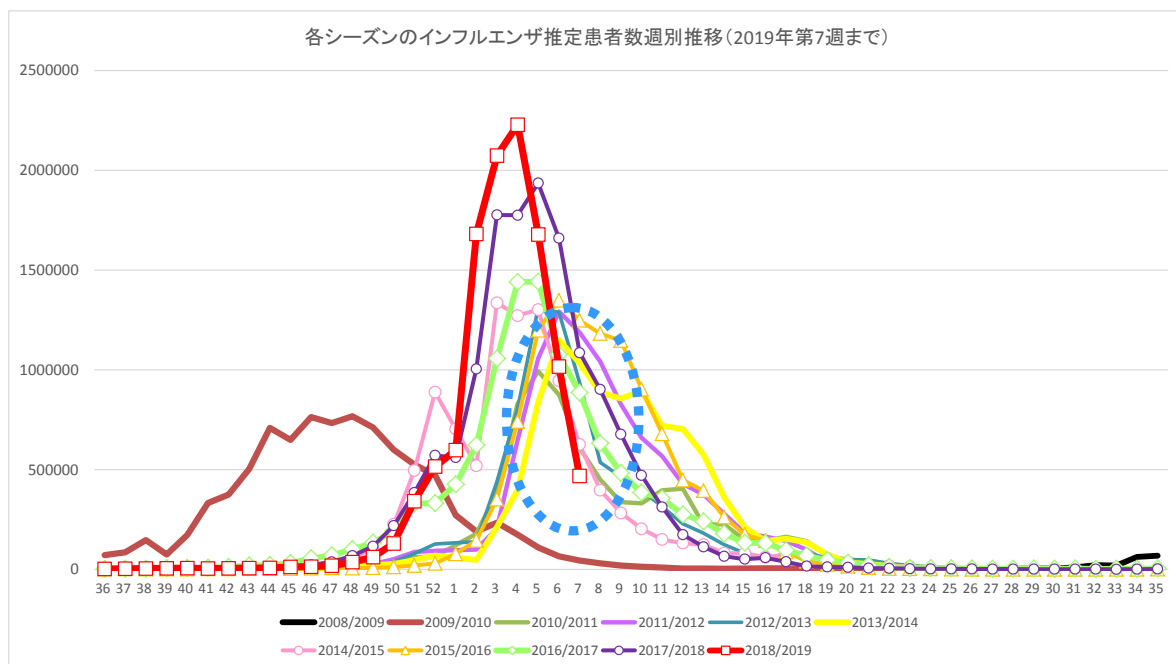


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第7週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第7週の推定患者数：468,652）

各都道府県別の第7週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると秋田県、福井県、北海道、栃木県、大分県、の順となっており、2週間連続して47都道府県全てで前週よりも減少が見られました。

2018年第36週から2018年第7週までの累積の推定患者数は10,917,543であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は8.62%でした。年齢群別で

の累積罹患率は5～9歳（28.72%）、10～14歳（21.17%）、0～4歳（20.30%）、15～19歳（11.26%）、30～39歳（9.07%）、20～29歳（8.52%）、40～49歳（8.00%）、50～59歳（6.51%）の順となっていて、例年と比べると成人層の罹患率が高い状態が続いています（図2）。

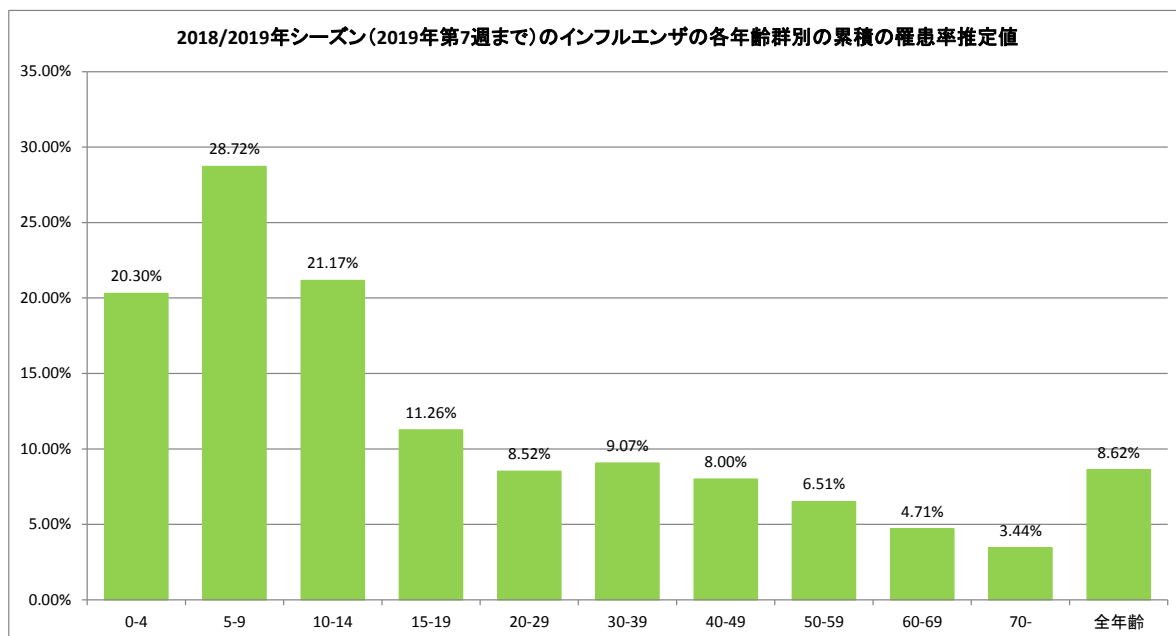


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2018年第36～2019年第7週、累積推定患者数=10,917,543）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（2,485 検体解析）は、A/H1pdm が54.8%と多く、次いでA/H3（A 香港）亜型43.6%、B型1.5%の順となっている一方、1月に入ってからではA/H3（A 香港）亜型の検出数が半数以上を占めています（図3）。

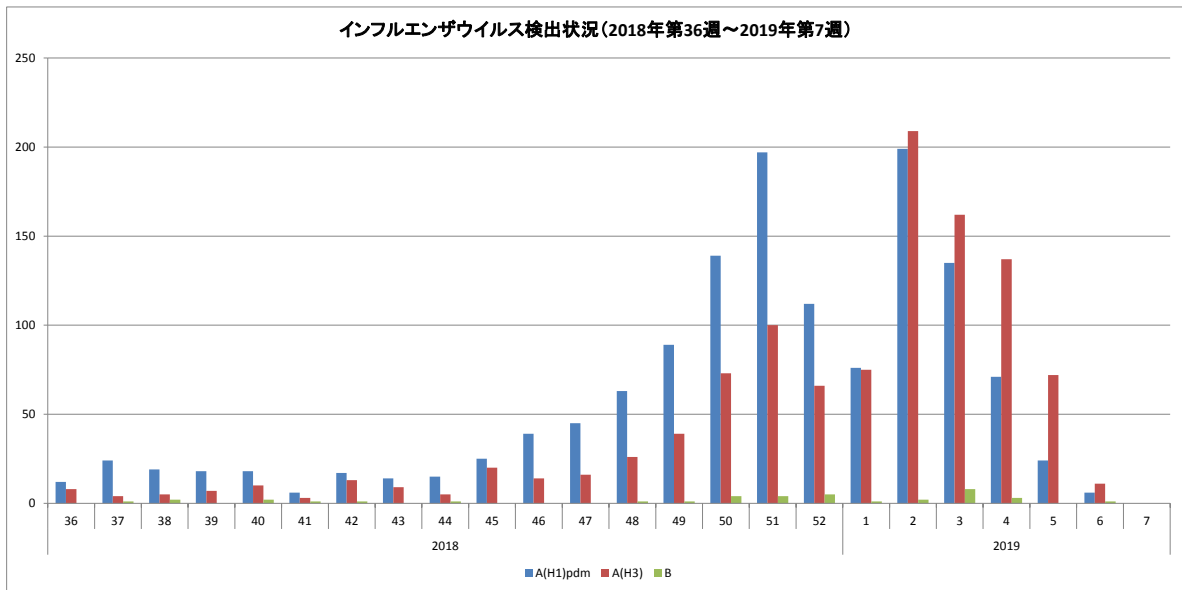


図 3. 国内のインフルエンザウイルスの検出状況の週別推移（2018 年第 36 週～2019 年第 7 週；国立感染症研究所病原微生物情報 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html> より得られたデータを解析）

2019 年第 7 週のインフルエンザの推定患者数は約 47 万人と 3 週間連続して減少がみられていて、今後もこの減少傾向が継続していくものと予想されます。インフルエンザの流行は落ち着きつつありますが、今しばらくはまだ流行の推移について注意が必要です。